ある法律事務所
職員の体験から

paralegal

誠実な仕事めざして

法律事務所職員　千代崎せつ子

私達事務職は事件の全体に関わることは少なく，法律的な判断に携わることもない。判決などに基づいたその後の手続きを行なうことが多い。
そういった中で最も「現場」を実感するのが，明渡しや差押えである。

◇◇◇私の仕事

明渡し，差押えは弁護士が立ち会わないことが大半なので，執行官ともども現場での判断を要求される。相手方が住んでいる家に入って家財道具などを差し押さえ，泣かれたこともある。賃料不払いの明渡しは「ここを出されたらホームレスになるしかない」と言われたり，その筋の事務所へ差押えのときは，「これが私の仕事」と開き直って出かけて行った。

◇◇◇牛の差押え

もうだいぶ前の話になるが，牛の差押えをやった。債務者は農家で家屋敷，山林等は差し押えられている。債権者の話によると乳牛を飼っているとのこと。弁護士と相談の上，乳牛を押さえることにした。債権額は200万円。さて乳牛を何頭押さえたらいいものか。その前に乳牛の値段とはいくらするものか。値段調べに随分苦労した。アチコチに電話をして調べた結果，乳牛は毎日お乳を搾って出すので，1回か2回出産している牛が一番高く売れるとのこと。当時の相場で80万円。1頭80万円だと，とりあえず2頭押さえればいいなと心づもりをして，その債務者の家に出向いた。

◇◇◇債務者と相対峙して

家屋敷は大きいが，何か荒れているというか，寒々しい感じがする。債務者本人は留守で，青白い頬をした奥さんがいた。私は4頭ほどいた乳牛を執行官と見て回った。縁側に座っていろいろ話を聞くうちに，私は何だか切なくなってきた。奥さんは50代くらいのもの静かな人で，胃を切って退院したばかりとのこと。何でこんなに借金を背負ったのか不思議で，何かうまい話に夫である債務者がひっかかってしまったのだろうか。200万円など返せないと途方にくれている。執行官と2人で，毎日搾乳をして現金収入がどのくらいなのかを聞く。その中から生活費と，返済に回せるお金はあるのか。分割弁済の方法を話すと，奥さんも分割払いでよければ返済できるということになり，穏やかな話し合いで帰って来ることができた。

あとになって，牛を押さえてどこで保管しておくのかなど全く考えていなかったことに気がついた。いくつもの執行を行なってきたベテランの執行官はその点も見越して，とりあえず出向いて債務者を説得し，返済の道筋を話せば解決すると思ったのかもしれない。値段調べに必死で，「牛を差し押さえる」という申し立てにも動じることなく応じて下さった執行官に感謝するばかり。その後，依頼者の連絡によると順調に返済が行なわれたとのこと。

◇◇◇誠実な仕事めざして

差押えや明渡しは，ある意味，土足で初対面の相手方に乗り込むのでナカナカ気が重い。でも，強制執行にまで至った事件がこのように解決できたときはうれしい。国民の権利や財産といった重要な局面に関わっている者の1人として，血も涙もある誠実な仕事をしたいと思う。